

THE BEST 100 MOVIES



映画人20人が選ぶ 名作ベスト100

いい映画はまさに心を潤す栄養剤。ぎゅっと詰まった芸術のエッセンスが何度見ても心を豊かにしてくれる。そんな作品に出会いたければ究極の映画マニア——そう、映画人に聞くとのが一番だ。本特集では監督や俳優、脚本家、批評家など映画を知り尽くす面々が本誌だけに選んだ「とっておきのマイベスト」から映画史に残る21世紀の名作までえりすぐりの作品群を紹介しよう。

いよいよ映画はまさに心を潤す栄養剤。ざっしり読まざる芸術のエッセンスが何度見ても心を豊かにしてくれる。

そんな作品に出会いたければ究極の映画マニア——そう、映画人に聞くと一冊だ。本特集では監督や俳優、脚本家、批評家など映画を知り尽くす面々が本誌だけに語った「とっておきのマイベスト」から映画史に輝ける21世紀の名作までえりすぐりの作品群を紹介しよう。

NEWSWEEK [JAPAN] (2/5/2012)

Classics of the 21st Century

21世紀の傑作映画を語り尽くそう

対談 この10年が映画不毛の時代だなんてとんでもない!
2人の映画記者が選んだ「殿堂入り」すべき新たな名作



ラモン・セト-95
(米陸軍・ターシャ・ロビンソン)

ピーター・トラバース
(ローランド・ストーン 監訳 河野 実 訳)

[illegible]



ラミン・セトゥッダが
選んだ21世紀の名作！

THE HURT LOCKER
(R-14-DVD-1) (2006)

監督／ホセ・路易斯・ボルハス
主演／ジョエル・パトリック・
　　ダンカン、ニーサン・カーク

THE DEPARTED
 (デパート=デパート) (2006)

監修/マーチン・スミス
主演/レイオナルド・パティ
フットボール

THE READER
[愛と闘った少女] (2004)

監督/スティーブ・ボイル
主演/キートン・ジョンソン
原・監・脚/ボイル

WIT
[エマ・キンズドン役]

電話 / 0474-23461
 FAX / 0474-23461

THE DIVING BELL &
THE BUTTERFLY
THE BUTTERFLY & THE DIVING BELL

監修/ジュリア・シムズ
主筆/中島 一 著者/中島 一

「……うん、大人になれないうちから、バードを愛護できないスパービーとシーの一族」年を組んで「自分達正しい人生を生きてるのか」と思ったことにさせるか。人生の善と悪同じで夢中で生きるのか、それともあのままの現状を受け止めるのか」

監督がブラッド・ピットは昔年、「マッシュロン・イン・ザ・ブルー」の作中で実写映画の如く監督を演じた。戦後でものを考える彼は、アニメを演じるレベラに引き寄せられた。

レッドワッド ハリウッドはイラク戦争の映画もいくつか作った。彼自身は本年の選挙処理面を描いた「パトリート・ロウカー」で、そのパトリートを見ていたものによりリアリだった。98年度のアカデミー賞で「パトリート」を組んで作戦的に輝いたのもまた不思議に思われた。

トウライズ 最後はもう一つ傑作を挙げたい。メキシコのアル

「トウモロコシ・ワールド」だが、フアン・キューブラー監督の「オタクモロ」は、私はあの作品に取りつかれた見聞かつた瞬間に達して、見返すたびに考えさせられる。素晴らしい未来を描いているが、彼等には、人類が滅ぶという悲観的な見方はなく、むしろ希望がある。

こんな小中に描ける映画に惹かれて、幸せだ。この10年間で何が論議だったかを問われたら、答えるはびこる。マイケル・ペイダー「トランスフォーマー」3部作は、ハリウッドのやり方自体が崩壊している見本だ。とこんなふうに言ってしまうようにもなる。

それは、明日見ても今見ても骨に響きをつくる。とれる。

ワッドワ ハリウッドはあまり創成でないと言われるのは、被爆が映画を破壊しているからだが、昨今は日本という記録的な

「ストリーム」や「カーズ」のように空振りになつたものは、観客が飽き厭ひでいる証拠だ。ハンク・ウォーレンの『消えた花』と史・スティーヴ・目録は、『最良だった』『タイに舞を飾した』『首は海賊のつた。身も人骨と骨だけにするひどい仕打ちだ』『ランフリーパンダ』もひとつかた。

もっとも、「トワイライト」と「ハリー・ポッター・シリーズ」は最も楽しんだ。小宮が原作では、純粋な作れるだけの物語があるのだろ。

トゥバーズ それで『純粋なリマークのおパレード』は今後も続く。この夏は「スイデーマン」に「トータル・リコール」最近映画の製作費が莫大になり、ハリウッドは窮乏になつてくるようだ。観客が飽き厭ひでなければ、新しい映画を作らうとしない。それこそ創作界に於ける最大の危機だ。

イタ・ニコラス（『平説』66年）のイタ・ニコラスは、1903年に、
 入って、「エジプシス・エス・イ
 アメリカ」（「アロー・サー」と
 まるで無名無姓の通り名だ。中
 ても知らぬらしいのが、その映画
 の「サ・ト・シブ・シブ」のウイ
 ト・ホーの顔。ビュリッガー・賞
 を受賞した戯作者が、本題
 無名無姓の面影が見え、（生
 シブ・シブの面影が見え、（生
 とは、が、そのこの映画を見
 れば、人生観を揺るがすもの
 いらぬ。）
 ジ・エー・シ・エー・ペルを
 舞の『日本舞踊は舞の夢』（『
 』）をもとに、主人公は例外的に、
 命を失われるが、過激な力と
 し、愛人と友人と、過激な力と
 へ戻る。どちらの作風にも
 このこの面影を教える。これ
 の『フ・カ・シ・エー・ペル』は、
 作りの入っている。『コー
 』以前の『舞の夢』といえ、それ
 以上の面影は要らないだろう。

コーエン兄弟は現代映画界の巨匠として、数々の傑作を作る。「フー・エント・ワズ」はコーエン・マクナギーの小説が原作だが、アメリカの若い映画界に実在したアメリカの音楽家と見事に描き出したのを、称してあげられない映画であり、史上最高の作品の一つだ。

さて、もうすぐ傑作の作例の話をしよう。「ワシントン・ネイトワーク」は、これまた名監督アーヴィング・ウィンスタッドが、フェリスブックの創作者の物語で、この出来におけるSNSの意義を描いている。

マーク・ザッカーバークの「ジェシー・アイズンバーガー」の演技は素晴らしい。これはウィンスタッドの長がさすがで、描き出している「ユース」も、最終的な作中にもある。これは、ヤマト、ケイト、ウィンスレットの演技が光る。『愛を説くワ』もいね、ナサンの演

と情事にふけるが、やがて過去
の罪を償うことになる。

それから「エリナ・ブコビ
ツチ」・「ジャコバ」・「ロバート・
ワグネル」の連作の影が、カリ
フォルニアの小さな町の公立校
園で大企業から巨額の献金を
募り取る。どちらでもありの
べきらしい。そして、最愛の女
友が最高の面姪を見てはる数
少ない作品でもある。

ところで、この10年間はずアニ
メにとっても素晴らしい時代だ
った。私は「トイ・ストーリー
3」を観念入りさせた。大人
になることについての寓言であ
る。大切なものを手放さなくて
いいことを教える。3D制作の
画面上でいて掛かったも、星屋
は泣いていたから。ピクサー社
は本物の絵と物語を作る。

トウキョー 1作（二世代間の
3部作）、「夢エンタレタイプ
」にもある。「トイ・ストーリー



ピーター・トラバーズが選んだ21世紀の名作②

ETERNAL SUNSHINE OF
THE SPOTLESS MIND
[エターナル・サンシャイン]
(2004)

監修/石川ルンゴウ
主演/山崎孝太郎
製作/山崎孝太郎

THE SOCIAL NETWORK
[「ソーシャル・ネットワーク」]
(2010年)

監修/デービッド・アノキン
主演/アシュリー・アイゼンバウム
2007年10月12日公開

THE INCREDIBLES
(原: インクレディブル) (2004)

監修／アサダロキード
作詞作曲／タレイザ・サ・シムボン
ボジャー・ボジャー

CHILDREN OF MEN
(1991) (7-8-9) (2006)

監修／アキフミコ・キョウジ
主編／サライ・オーセン
デュリア・ムーア

DRIVE
「ドライブ」(2011)

監修／三浦孝太郎（デジタル・ラボ）
主編／中村アツシ（三野出版）
キヤプー・ラボ監製

空想と現実が交わるとき



『パンズ・ラビリンス』
(2006)

監督 / ビル・ゴダード
主演 / イサベル・エルロ
モリス・ロドリゲス

「少女が経験したスペイン内戦の恐ろしさを夢に投影して描く。笑っている彼女らは、それが現実でそれが夢が分からなくなる。死の都府も、彼女の空想の中で見ることになるんだ」

『オズの魔法使』
(1939)

監督 / ビクター・フリン
主演 / ジュディ・ガーランド
ブレンダ・カーク

「僕が初めて見た映画。ドロシーが人々の愛を理解するために、とんでもない道を冒険する。映画の最後にはすべて夢だったと分かるけど、彼女はちゃんと大事な教訓を学ぶ」

『オ・ハイ』
(1997)

監督 / ダレン・アラウスタ
主演 / ショーン・ベネット
マック・グレイ

「ダレン・アラウスタのデビュー作で、空想の世界を斬新なスタイルで表現してはるが、天才的な数学者の脳が、彼にとっての現実を築き出すところが興味深い」

映画家

エズラ・ミラー

6月に日本公開される
「少年は残酷な男を倒す」の
美しく危険な息子役で
注目されたハリウッドの新星



『アイタ・シェムター』
(2011)

監督 / ジェフリー・サハ
主演 / アイタ・シェムター
シム・トメル

「大団円から家族を守るシェムター作りに驚かされた男の心理ミラー。『主人公は愛の犠牲を恐れる結合失敗の男。夢と現実の境が薄れるなか、最後は驚くような展開に』」

『マーサ・マージョー・メイ・マージョー』
(2011)

監督 / ショーン・グレン
主演 / エズラ・ミラー
クリス・ワグネル

「ホリウッドから遠ざかり、トラウマを抱えた少女がかつての記憶を夢や妄想、そして現実の中で呼び喚まされてしまう。観客も惑わされる」。昨年のサンダンス映画祭で監督賞受賞。

男たちの強さと弱さと



『博士の異常な愛情』
(1984)

監督 / スタンリー・キューブリック
主演 / ロバート・デ・ニロ
ジョージ・ハミルトン

「監督は『または私は彼に対して心配するのを止めておぼろげにするようになったか』。その冷徹な下層層に、核戦争の恐怖を歴史的にシニカルに盛り上げている。『シンク・ロゼン』シリーズで知られるイギリス人俳優ロバート・デ・ニロが異常な天才、未



『さらば冬のかもめ』(1978)

監督 / ハロルド・ロビンソン 主演 / ジョージ・ハミルトン、クリス・ワグネル

「2人の海軍将校が、窃盗を犯した水兵を東海岸にある海軍刑務所まで運送していく。1973年当時のアメリカをうまく捉えている」

大団円。マクガイエンディオの1人3役を飾る。スタンリー・キューブリックが導いた最後の白黒映画でもある。『はらばら』で、そしてそのほど恐ろしいキューブリックの本作。破壊の危機にある世界を描いた、究極のダークコメディだ」

『ハイ・ホープス
ヤング・タロスの人々』
(1988)

監督 / マイク・リー
主演 / フランシス・マクドナルド
カール・ラッセル

「ロンドンのキングス・クロスに暮らす人々をユーモラスに描いた人間ドラマ。『登場人物の愛や情が、とてもよく表現されているのがマイク・リーの映画だ』」

『甘い生活』
(1993)

監督 / フェデリコ・フェリーニ
主演 / マルティン・スコセッシ
アンナ・カリー

「作家志望の夢破れ、今はゴシップ記者として暮らす主人公の人生を描く。『甘い生活』。彼等の愛と情と呼ばれるフェリーニならではの印象的な場面が多い。1960年のローマを舞台にした、道徳的倫理と上流社会についてのお話。それにふさわしい見せ場の作り手や、イメージ表現はまさに天才的だ」

『レイジング・ブル』
(1980)

監督 / マイク・ニコル
主演 / ロバート・デ・ニロ
キャシー・ベケット

「実在のボクシング選手、ジャック・ドナチの栄光と挫折を鮮明に見せる。モスクワの試合場が圧巻だ。ロバート・デ・ニロは本作でアカデミー賞主演男優賞を獲得。『主人公の心理に焦点を当てたドラマで、スリリングな展開があった。彼等が描いた、最も危険な技巧が光る』」

ほとばしる個性で勝負

経歴書

アリ・フォルマン

イスラエルの映画監督。
実体験に基づいた
真実アニメ「戦場では死なない」
で世界の注目を集めた



「フェリーニのアマルコルド」

(1974)

監督/フェリーニ
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

フェリーニの魂が吹き抜けた30年代のイタリアを舞台に、小さな漁村に生る少年の1年を描いたフェリーニの自伝的傑作。「子供の頃に母が死んでくれた」この家でスーパーヒーローと呼べる人はフェリーニだけだ

「実録28」

(1989)

監督/ミル・グロセフ
主演/アリ・フォルマン
カネ・カネ

冷戦時代のソ連作品で、第2次大戦中にドイツ軍に占領された村の惨状を描く。「反戦映画の最高傑作。他の作品とは比べものにならない」

「ストレンジャー・ザン・パラダイス」

(1984)

監督/リム・シム・シム
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

社会から排除された若者3人のロードムービー。「これを見てから、映画制作で予算は問題じゃないと考えるようになった。ブルジョアムッシュは自由な精神で映画を作る達人だ」

「モンテネグロ」

(1991)

監督/ジャン・マルコ
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

スウェーデンで優雅な生活を送るアメリカ人主婦が性的に変化していくさまを描きながら、彼女の心に潜む狂気を暴かす。「とにかく好きでたまらない作品」

「未来日記」

(1992)

監督/ジャン・マルコ
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

映画も物語もほとんど人工的・センセーショナルなブラックコメディ。「映画監督としてジャン・マルコが得意なことすべてが好き。この作品は1コマ1コマまで、リアルなものである」



ほろ苦い大人向け



「ある結婚の風景」

(1974)

監督/イングマル・ベルイマン
主演/マリア・カネ、ジャン・マルコ

「イングマル・ベルイマンのこの作品には見る者の心を射抜く力がある。主演のジャン・マルコは女優として映画史上で最高の演技を披露した」

「偉大なアンバー・ヴァン・デル・グー」

(1942)

監督/アンバー・ヴァン・デル・グー
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

「市井人情」でデビューを飾ったアンバー・ヴァン・デル・グーの監督作品。しかし

し映画会社が勝手に再編集し、オリジナルとは全く別な作品になった。アメリカ中西部の大富豪一家が時代の変化に動揺され、没落していく姿が描かれる。「初の監督作品。ヴァン・デル・グーは、作者はずだった作品の『主』にす

経歴書

ニール・ラビュート

「ベア・サイズ・モア」
「お嬢」などを手がけた
映画監督。脚本家として
脚台でも活躍中



がないと語っていた。それでも、見た人は感動のあまり泣くだろう」

「レッズ」

(1981)

監督/ニール・ラビュート
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

1917年のロシア革命を描いた実在のアメリカ人ジャーナリスト、ジョン・リドと女性解放運動家ルイズ・ブライトの恋を描く。激動の時代を

アルに描いた社会派ドラマ。「手掛けたのはアメリカで最も優れた俳優で金も監督。プロデューサーのウォレン・ベイネン。美しくチャレンジ精神あふれる作品だ」

「甘い生活」

(1983)

監督/ジャン・マルコ
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

作家を志してローマにやって来た若きマルティネロが、道徳に縛った上流社会にのみ込まれ、次第に自分を失っていくさまを描く。「すべてのカットが見る者の感情を揺るがせる『ごちそう』のようだ。飛び切り華やかであるが、深い悲しみもたたえた作品でもある」

「クレールの顔」

(1970)

監督/ジャン・マルコ
主演/ジャン・マルコ
マリア・カネ

結婚を決めた男ジェロームが、別荘で出会った若く美しい女性と心を通さずられる様子を横顔に覗いたフランス映画。「これを見たのがきっかけで、ジャン・マルコの監督の熱意が伝わってきた。シンプルで、そして自分らしい作品に世を上げる位置が支えなしに満ち溢れている」

